

I 令和7年度事業報告書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

当協会は、昭和23年8月に財団法人埼玉県消防協会として設立され、「消防思想を普及徹底し、消防諸施設の改善と消防活動の強化を図り、もって社会の災害を防止し、人類共通の福祉の増進に寄与すること。」を目的に活動している。

公益法人制度改革関連法の規定に基づき、平成24年4月1日付けをもって、公益財団法人埼玉県消防協会へ移行した。この移行と共に公益性をより高め県民の更なる安心・安全の確保を図り、福祉の増進に寄与することが求められている。

当協会の事業の内容は、地域の消防・防災活動の中核的な担い手である消防団員及び消防職員への支援を通じ、地域の災害の防止に貢献するための事業を行っており、その概要は次のとおりである。

I 公益目的事業

1 消防操法大会事業

第26回全国女性操消防法大会

令和7年10月28日(火)神奈川県横浜市で開催された第26回全国女性消防操法大会に埼玉県代表として第3ブロックから選出の皆野町消防団女性消防隊が出場し敢闘賞を受賞した。

2 表彰事業

(1) 第77回埼玉県消防協会定例表彰式

令和7年10月23日(木)あげお富士住建ホールにて、消防団、消防団員及び企業など延べ42団体、2,420人を表彰した。

(2) 死亡特例表彰

在職中に死亡した消防団員11人に死亡特例表彰を授与した。

3 慰霊祭事業

埼玉県消防協会消防殉職殉難者慰霊祭

令和7年11月10日(月)埼玉県防災学習センター北側慰霊碑前において、消防殉職・殉難者84柱の御霊に対する慰霊祭を挙行し、遺族及び消防関係者291人が参列した。

4 研修事業

(1) 消防団員基礎教育

埼玉県消防学校が行う教育訓練の現地研修修了者(概ね入団3年以内)で新入消防団員を対象とした基礎教育研修を支援した。

回数	実施日	受講者数（うち女性数）
第1回	令和7年11月15日（土）	60人（2人）
第2回	令和7年11月29日（土）	95人（8人）
第3回	令和7年12月13日（土）	104人（11人）
第4回	令和8年2月14日（土）	78人（7人）
第5回	令和8年3月8日（日）	65人（9人）
合 計		402人（37人）

(2) 消防団員幹部教育（初級幹部科・指揮幹部科）

埼玉県消防学校が行う教育訓練として、消防団幹部を対象とした初級幹部科・指揮幹部科（現場指揮課程・分団指揮課程）の研修を支援した。

種 別	実施日	受講者数（うち女性数）
初級幹部科	令和8年1月17日（土）	128人（3人）
指揮幹部科	現場指揮課程 令和8年1月30日（金） ～31日（土）	56人（1人）
	分団指揮課程 令和8年2月28日（土）	83人（0人）
合 計		267人（4人）

(3) 住宅用火災警報器設置推進研修

消防団員を対象に住宅用火災警報器の設置率向上を目的とし、熊谷市消防本部の大澤一喜氏を講師に迎え、「住宅用火災警報器の設置率、維持管理、奏功事例等」について、Webによるオンライン研修を実施した。

実施日	時 間	受講場所	受講者数
令和7年 9月13日（土）	10時00分 ～11時30分	消防本部又は 市町村会議室等	205人

(4) 女性消防団員研修

女性消防団員を対象に避難所の運営を目的とした「HUG訓練（避難所運営ゲーム）」を実施した。

講師は、川越市消防団員で防災士の田中緑氏で、県内4消防団から4名の女性消防団員（川口市消防団員の大沼早苗氏、深谷市消防団員の遠藤美

智代氏、三郷市消防団員の対馬代志子氏、川越市消防団員の渡辺美智子氏)が、講師補助を行い、県内女性消防団員が参加した。

実施日	時 間	開催場所	参加者数
令和7年 11月1日(土)	13時00分 ～16時00分	埼玉県 防災学習センター	62人

(5) 日本消防協会研修

日本消防協会主催による各都道府県から推薦された消防団幹部及び幹部候補生を対象とした特別研修に、各ブロックから推薦された団員を派遣した。

種 別	実 施 日	受講者数
消防団幹部特別研修	令和8年1月13日(火) ～1月16日(金)	第3ブロック 男性1人
消防団幹部候補 中央特別研修	令和8年1月28日(水) ～1月30日(金)	第1. 2. 4ブロック 男性3人
	令和8年2月18日(水) ～2月20日(金)	第1. 4ブロック 女性2人

開催場所：東京都港区虎ノ門 日本消防協会大会議室

(6) 全国女性消防団員活性化事業

令和7年11月13日(木)長崎県長崎市において、日頃の消防団活動や先進的取り組みについて全国の女性消防団員と情報交換、交流を深めることにより、幅広い視野と知識を習得し団員活動をさらに活性化させることを目的に「第30回全国女性消防団員活性化長崎大会」が開催された。

この大会に本県から14消防団の女性消防団員等関係者59名が参加した。

(7) 消防団長等幹部研修会

消防団長を対象に研修を実施した。

第1部では、国土舘大学名誉教授(元NHK解説員)の山崎登氏が、「地域の防災力と消防団」と題した講演を拝聴、第2部では総務省顧問池田達雄氏(前消防庁長官)から「地域防災力(消防・消防団)の向上に向けて」の講演を拝聴した。講演後には消防団員の確保について質疑があるなど有意義な研修会となった。

実施日	時 間	受講場所	受講者数
令和7年 11月27日(木)	14時00分 ～17時00分	さいたま市中央区 THE MARK GRAND HOTEL	54人

5 普及啓発・活性化事業等

(1) 火災予防啓発活動

全日本消防人共済会の依頼を受け、県内の小中学校あてに防火ポスター及び防火防災作文の募集を行い、防火ポスターでは応募のあった11点、防災作文では応募のあった6点からそれぞれ2点を推薦した。

その結果、防火ポスターで日高市立高萩中学校2年生 長澤芽吹^{めぶき}さんの作品が優秀賞、防火防災に関する作文では北本市宮内中学校3年生 田中^{しょう}翔さんが佳作にそれぞれ選ばれた。

なお、防火ポスターの最優秀賞の作品は、全日本消防人共済会の防火ポスターとして全国に配布され、県内は1,100枚を消防団等に配布した。

(2) 埼玉県防災講演会

県民を対象に防災意識の向上を図ることを目的に、災害リスク評価研究所代表の松島康生氏による防災講演会を県内2か所において実施した。

回数	開催場所	開催日	受講者数
第1回	あげお富士住建ホール (上尾市)	令和7年 5月18日(日)	202名
第2回	深谷市民文化会館 (深谷市)	令和8年 2月28日(土)	190名

(3) 消防団員確保・活性化事業の推進

普及啓発・活性化及び団員の確保事業のとして、実施した各ブロックに対し10万円を上限として助成した。

助成金額 4地区ブロック 合計 400,000円

II 収益事業等

1 福利厚生事業

(1) 死亡弔慰金の交付

在職中に死亡した消防団員13人、消防職員2人の計15人の遺族に対して弔慰金を交付した。

(2) 育英支援金の給付

育英支援規程による、殉職消防職団員の遺児に対する育英支援金の給付を行っている。

なお、令和7年度は、該当なしであった。

(3) 消防団員等福祉共済

公益財団法人日本消防協会による、消防職団員を対象とした消防団員等福祉共済の加入給付手続を行っている。

令和7年度は、遺族援護金12件、障害見舞金3件、生活援護金0件、入院見舞金51件、合計66件で総額14,716,500円を給付した。

(4) 消防団員健康増進事業

消防団員の健康増進等を支援するため公益財団法人日本消防協会の消防団員等福祉共済事業による助成を受け、健康増進器具等の経費の一部を助成した。

助成金額 64消防団等 1,236,970円

(5) 消防個人年金等事業

ア 消防個人年金への加入促進

消防職団員等がゆとりある将来、安定した将来に備えるため、公益財団法人日本消防協会が実施する消防個人年金制度の加入促進を図った。

イ 火災共済制度の加入促進

消防職団員等の不慮の災害による損害を補填するため、生活協同組合全日本消防人共済会が実施する火災共済制度の加入促進を図った。

Ⅲ 役職員に関する事項（令和8年3月31日現在）

1 役員数

役職名	常勤	非常勤	備考
会長	0	1名	代表理事
副会長	0	4名	理事
理事	1人	17名	専務理事1名、常務理事1名含
監事	0	4名	市会計管理者2名、消防団長2名
評議員	0	16名	消防団長
計	1人	42名	

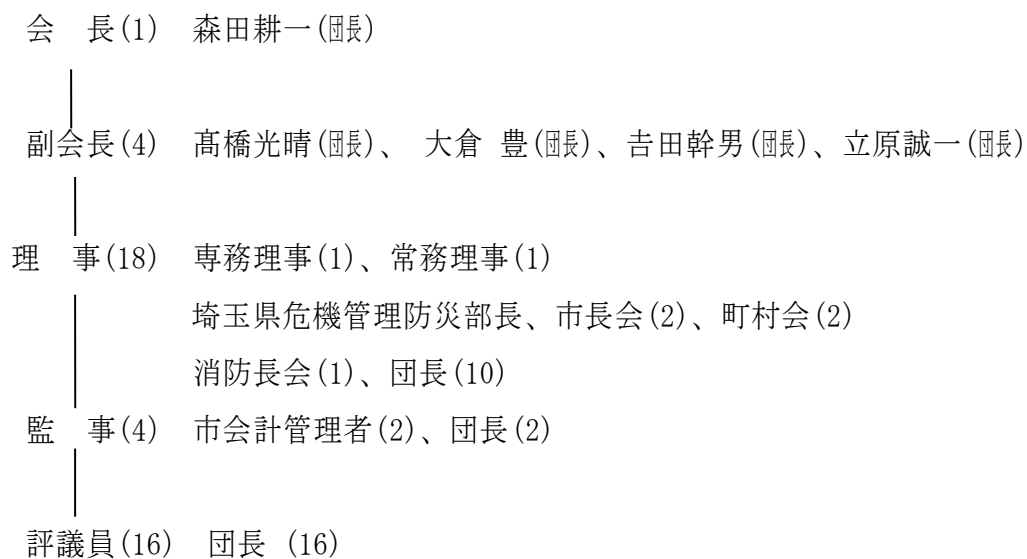
(注) 同一親族等特別な関係にある者の理事等の役員に占める割合0%

2 事務局職員数

- ・ 常務理事兼事務局長 (常勤) 1名
- ・ 次 長 (常勤) 1名
- ・ 主 任 (常勤) 1名
- ・ 書 記 (非常勤) 1名

3 組 織

(1) 役 員



4 その他

附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。